



別記様式2-2号

視察研修等報告書

令和7年10月6日

坂井市議会

議長 佐藤寛治 殿

会 派 名	政友会
報 告 者	川畑 孝治

1. 日 時 令和7年9月3日（水）～令和7年9月4日（木）
2. 視察研修先 (1) 東京都江東区3丁目11-1
東京ビッグサイト
(2) 東京都江東区青海2-3-26
産総研「臨海副都心センター」
3. 視察研修内容 (1) 東京インターナショナル・ギフトショーの視察
(2) 産総研「臨海副都心センター」展示施設の視察
4. 参加者 川畑孝治・伊藤宏実
(市政会 後藤寿和議員・政新さかい 辻人志議員同行)

5. 所見・感想等

(1) 東京インターナショナル・ギフトショー

伊藤宏実

東京ギフトショーでは多岐にわたるカテゴリ：ギフト、インテリア、クラフト、生活雑貨、食品関連など、幅広いジャンルの商品が一堂に会し、会場は朝から晩まで賑わっていました。

今回のショーのメインテーマは、「愛と平和の、そして夢のある、豊かな暮らしのための贈り物づくり。」ということでしたが、総出展社数は1,900社あまり、3日間の来場者は、42,000人あまりでした。

今回のショーで私が興味をひかれたのは暮らしをテーマにした生活雑貨の展示が多かったことです。ライフスタイルの変化を機敏に捉え、また、若者の感性に順応させた色々な商品が並んでいました。特に最近は家電製品にもAI搭載の商品が増え、スマホとの連動も当たり前の商品が並んでいました。

自治体の今後の取組みについても、AIの活用やスマホとの連動は必須だなと痛感しました。

川畑孝治

今回のギフトショーでは、前年まで多くのスペースを使っていたキャンプやアウトドア関連のスペース・サウナ関係の展示が目につかず、これらのブームが去ったように感じた。

今回自治体や地域からの出展が多く感じた。特に石川県は会場入り口に大きな展示ブースを設け、金箔や色鮮やかな九谷焼関係など多くの展示があった。

福井県のブースは石川県の3分の1くらいのスペースで、白をベースにして10の展示を行っており、坂井市からは株式会社松川レピアンが出展しており、国内最大規模の「チロルリボン工場」の可能性としての展示を行っていた。

今後も市内のものづくり企業がこのような展示会などで情報発信を行い、産業の活性化につながることを期待したい。

(2) 産総研「臨海副都心センター」

伊藤宏実

坂井市春江町には、産総研の研究拠点として「北陸デジタルものづくりセンター」があります。日本海側で唯一の研究拠点ですが、福井県の『ものづくり』が国内でも高く評価されている証ではないでしょうか。

臨海副都心センターでは、展示スペースがありこれまでの研究成果や開発商品の展示が多くありました。その中で注目したのは、いわゆる産業ロボットです。展示されていたロボットは研究実験施設のロボットで、試験管に試薬を投入したりする作業を何時間でもスイッチがオフにならない限り続けることが出来るというものでした。金額は、なんと1億円とのことでした。

しかし、こういった研究の中で生まれた商品が日本の基礎研究の土台になっていることを感じました。

春江町にある北陸センターでも繊維産業等の高付加価値化への研究がすすめられているとのことで、坂井市の産業発展にも寄与する研究施設であることがわかりました。

川畑孝治

産総研「臨海副都心センター」展示施設の少子高齢化対策～人と機械の協働～を視察した。

「ライフ・テクノロジー・スタジオ、副都心」では、臨海副都心センターで生み出された研究成果を中心に産総研の成果を展示していた。

取り組みの映像を見せてもらい、創薬などの実験を行うロボットが実際に展示してあった、同じ動きの繰り返しはロボットの得意分野で人とは違い、24時間繰り返し作動するとの事であった。

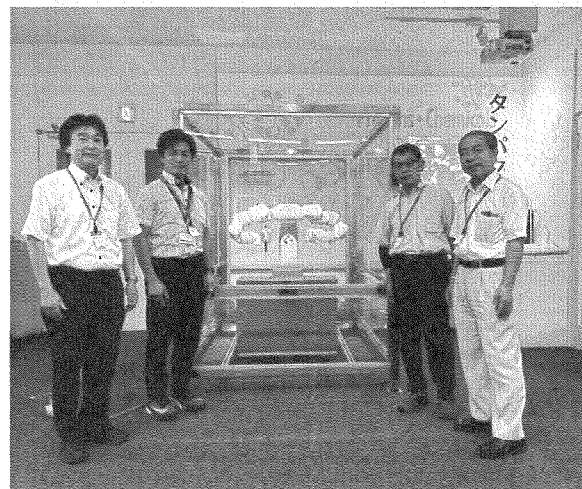
また、介護の現場で高齢者の相手をする、可愛いらしいアザラシ型の介護ロボットはとても癒してくれるロボットであった。

春江工業跡地にできた、北陸モノづくりセンターにおいても、福井の技術と産総研の蓄積してきた技術により、新しいモノづくりが行えるよう期待したい。

6. 添付書類



▲東京インターナショナル・ギフトショー



▲産総研「臨海副都心センター」